

非核三原則見直し 核兵器持ち込みか

総選挙で自維政権の暴走に
ストップ！

平和の選択を

非核三原則を守り
核兵器禁止条約に
参加するか

終末時計「残り 85 秒」で過去最短。

81 年前の惨劇を
反省しないのですか？

日本被団協がノーベル平和賞受賞

2024 年 12 月、核廃絶運動に取り組む日本の被爆者団体、日本原水爆被害者団体協議会（日本被団協）がノーベル平和賞を受賞しました。ノーベル委員会は授賞理由について、核兵器使用の危機が高まる中、核兵器使用は許されないという国際的な規範（「核のタブー」）を維持するためだと強調しています。

高市自民・維新の政権が、国会も開かず真冬の解散・総選挙を強行しました。統一教会との癒着や政治と金の問題を指摘されはじめた高市首相は、正体がばれないうちに総選挙で多数議席をかすめ取り、戦争する国づくりへ暴走しようとしています。

被爆国日本の「国是」、非核三原則（核兵器を持たず、作らず、持ち込ませず）を見直す。しかし中国などと対決するために米国の核兵器をいつでも持ち込めるようにする。「核抑止論」は核軍拡を激化させ、核戦争の危険を高めるだけです。日本が核兵器禁止条約に正式参加して世界の非核国とともに核保有国を包囲することこそが、核兵器廃絶を実現する大きな力になります。

